

<https://www.timednews.com/tc/2022/02/19/15060.html> 直訳抜粋

2022-02-19 Ju An

新しいクラウンレーサビリティ Bard Instituteの最新の調査は、実験室のリークの可能性を浮き彫りにしています。

2月19日、「Faguang」の報告によると、昨年10月にフランスバスト研究所の学者が査読のために提出した新しいコロナウィルスの起源に関する研究論文が、有名なウェブサイトにも正式に公開されることが承認されました。ウィルスの自然発生源がさらなる証拠を提供する場合、レポートはラボリークの疑いを追加します。

2020年の終わりから2021年の初めに、パリのパスツール研究所の病原体研究所の責任者であるマーク・エロイトは、研究チームをラオス北部の石灰岩の洞窟に導きました。

この種の地形と動物相は、ミャンマー北部、ベトナム北部、中国南部の雲南省などの近隣地域でよく見られます。

彼らがラオスで発見したウィルスは、「分離できた最初のSars-CoV-2株に非常に近く」、これまでに発見された中で最も近い株でした。

このウィルスは、新しいコロナウィルスのSタンパク質の機能を持ち、人間に直接感染します。それにより、ウィルスがコウモリから直接来た可能性に対する賭け金が増加します。

ラオスウィルスとSars-CoV-2株の最大の違い

ただし、ラオスで見つかったウィルスには、新しいコロナウィルスのもう一つの重要なリンク、つまり、パンデミックを引き起こす鍵となる大量感染を引き起こす可能性のある酵素のエントリポイントがありません。

この点に関して、Marc Eloit教授は、このエントリポイントは無症候性感染の過程で徐々に形成されるか、「実験室での細胞培養の過程で」得られると説明しました。

彼はまた、無症候性の状態にあるヒトにおけるウィルスの最初のサイレント循環は「理論的に可能」とであると付け加えた。

そして、これらのコウモリが住む洞窟は人間が頻繁に訪れる場所です。

これらの地域に住む人々はグアノを集めて感染した鳥を食べるためにそこに行き、これらの洞窟は観光客も頻繁に訪れます。

しかし、別のフランスの専門家であるエティエンヌ・ドクロリー教授は、マーク・エロイト教授の上記の発言に疑問を投げかけました。

まず、武漢市は雲南省の北東約2,500 kmにあり、コウモリはこの都市に住んでおらず、人口は1,100万人前後です。

第二に、これまでのところ、ウィルス源追跡調査で動物の中間宿主は発見されていません。

結局、武漢の華南シーフード市場の調査は、パンデミックの潜在的な出発点と考えられる手がかりを明らかにしませんでした。

インタビューの中で、マーク・エロイト教授は、新しいコロナウィルスが外界から疑念を抱かせたフューリン酵素のエントリポイントは、実験室で「細胞培養プロセス中に得られた」可能性がある」と述べました。

これは、新しいコロナウィルスの発生以来初めてです。

コロナの流行の可能性。

新しいコロナウイルスの発生源を調査している何人かの学者は、インターネット上のマーク・エロイト教授に、フリンの入り口を研究するためにエコヘルス・アライアンスによって提案された研究計画について知っているかどうか尋ねました。

さらに、ラオスのコウモリの洞窟で収集されなかった、流行の初期段階で武漢研究所の石正麗教授によって発表された新しいコロナウイルスに最も近いRatg13ウイルスがなぜでしたか？バード大学はこれまでのところ、RFAのインタビュー要請に応じていません。

フランスのテレビとのインタビューで、エティエンヌ・ドクロリー教授はバステ研究所の研究報告についてコメントしました。

ウイルス学者のマーク・エロイトが言及した実験室操作のアイデアは、他の主要な仮説である事故に直接つながります。

武漢には敏感な研究室があります。

「レベル4病原体」の略であるP4研究室は、エボラ出血熱などのウイルスが研究される非常に安全であり、コロナウイルスが研究される2つのP3研究室です。

これとは別に、パスツール研究所のウイルス学者はインタビューで、近年中国の科学者によって報告されたウイルスのいくつかは雲南省で収集されたと述べました。

しかし、専門家は、「洞窟でサンプルを採取する場合、厳格な個人保護条件が採用されていないと、人体汚染のリスクがあります。

これらのサンプルを実験室に持ち込んでウイルス配列決定用の材料を抽出すると、または細胞培養で拡大する場合、安全規則に厳密に従わないと関連するリスクがあります。

2004年に、SARSの発生の原因となったウイルスは、北京ウイルス学研究所から漏れ、P3に分類されました。

新しいコロナのトレーサビリティに関する私立探偵チームのメンバーであるエンジニアのロドルフ・デ・メストレは、フアグアンとのインタビューで、2019年に武漢の敏感な場所の近くで建設が進行中であると述べました。

「（実験室での）事故のリスクは高い」と彼は言った。

建設中の場所の隣に病原性ウイルスを扱う実験室と近くの工場がワクチンを製造している。

「実験室での事故はよくあることです。」WHOのテドロス・アダノム・ゲブレイエス事務局長は2021年7月の記者会見で、「私はそれらを見て、自分で間違いを犯した」と述べた。。

---

2022-02-19 居安

新冠溯源 巴士德學院最新調查彰顯實驗室洩露可能性

2月19日，據《法廣》報道，法國巴士德研究院學者去年十月份遞交同行審閱的有關新冠病毒起源的研究論文近日獲準在著名的自然雜誌網站上正式發表，如果說，該研究為病毒的自然來源提供了進壹步的證據的話，報告也增加了實驗室洩露的疑雲。

巴黎巴斯德研究所病原體實驗室負責人Marc Eloit在2020年底和2021年初，帶領壹個研究團隊前往老撾北部的石灰岩洞穴，據他本人介紹，那裏生活着數百萬隻蝙蝠。這種類型的地形和動物群在緬甸北部、越南北部和中國南部的雲南等鄰近地區很常見。

他們在老撾發現的病毒 "非常接近可以分離出來的第壹批Sars-CoV-2毒株"，是迄今為止發現的最接近的毒株，這種病毒具有新冠病毒中S蛋白直接感染人類的功能，從而為病毒來自直接蝙蝠的可能性增加了籌碼。

## 老撾病毒與Sars-CoV-2毒株最大區別

不過，老撾發現的病毒缺乏新冠病毒中另壹個關鍵的環節，那就是可以引發大規模傳染的酶切入點，這是引發大流行病的關鍵所在。對此，Marc Eloit教授的解釋是，這壹切入點或者是在無症狀感染的過程中逐漸形成，或者是“在實驗室的細胞培植過程中“獲得。他還補充說，在無症狀的狀態下，病毒在人類中最初的默默循環“在理論上是可能的”。而且這些蝙蝠生活的洞穴是人類經常光顧的地方：生活在這些地區的人去那裏收集鳥糞，並且食用被感染的鳥類，這些洞穴也是遊客經常光顧的地方。

不過，Marc Eloit教授的上述說法受到法國另壹位專家Etienne Decroly教授的質疑，因為首先，武漢市在雲南東北部約2500公裏處，而蝙蝠並不生活在這個擁有1100萬居民的城市內或週圍。其次，病毒溯源調查至今都沒有發現任何動物中間宿主。最後，在武漢華南海鮮市場的調查中沒有發現任何可以被認為是大流行病的潛在起點的蛛絲馬迹。

Marc Eloit教授在訪談中提到新冠病毒引發外界質疑的Furin酶切入點可能“在實驗室的細胞培植過程中“獲得，這是新冠疫情爆發以來，巴士德學院專家首次提到實驗室洩露的可能性。

多名追究新冠病毒來源的學者在網絡提問Marc Eloit教授是否了解美國生態健康聯盟（EcoHealth Alliance）提出的有關研究Furin酶切入點的研究計劃。此外，為何武漢實驗室石正麗教授在疫情初期發表的最接近新冠病毒的Ratg13病毒並沒有在老撾的蝙蝠洞中被采集到？巴士德學院到目前為止尚未回復法廣的採訪要求。

Etienne Decroly教授接受法國電視台採訪時就巴士德學院的研究報告評論說：病毒學家Marc Eloit提到的實驗室操作的想法直接導緻了另壹個主要假設：事故。武漢擁有敏感的實驗室：壹個P4實驗室--代表“4級病原體"--安全性非常高，在這裏研究埃博拉等病毒，還有兩個P3實驗室，在這裏研究冠狀病毒。

另外，巴斯德研究所的病毒學家在接受採訪時表示，中國科學家近年來描述的壹些病毒是在雲南收集的。然而，“當我們去山洞裏取樣時，如果不採取嚴格的個人保護條件，就會有人類汙染的風險，”這位專家說：“當這些樣本被帶入實驗室提取材料進行病毒測序，或在細胞培養中進行擴增時，如果不嚴格遵守安全規則，就會有相關風險。2004年，負責SARS疫情的病毒從北京病毒學研究所逃出，被列為P3級。

新冠溯源民間調查小組成員工程師Rodolphe de Maistre在接受法廣採訪時曾經介紹說，2019年在武漢的敏感地點附近正在進行施工。他說，“[實驗室]事故的風險很高”，有壹個正在運行的實驗室在處理病原體病毒，旁邊是壹個正在建設中的工地，附近還有壹個生產疫苗的工廠。

“實驗室事故發生，這很常見。”世衛組織總幹事譚德賽在2021年7月的壹次新聞發布會上說：“我見過他們，我自己也犯過錯誤。”他提到自己作為實驗室免疫學家的職業生涯。

巴士德學院研究團隊發表在自然雜誌網站文章鏈接：

<https://www.nature.com/articles/s41586-022-04532-4>